

**令和 8 年度 総務省の政策評価に関する有識者会議（第 1 回）
議事概要**

1 日時：令和 8 年 6 月 15 日（月）15 時 00 分～17 時 00 分

2 場所：総務省第一特別会議室（中央合同庁舎第 2 号館）

3 出席者：

（1）総務省の政策評価に関する有識者会議構成員

（座長）西出 順郎 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授

出雲 明子 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授

重川 純子 埼玉大学教育学部教授

新藤 健太 日本社会事業大学社会福祉学部准教授

田淵 雪子 行政経営コンサルタント

※山本清構成員は御欠席（コメントを資料配布）

（2）総務省

令和 8 年度評価対象政策の担当課長等

中井大臣官房政策立案総括審議官、渡邊大臣官房政策評価広報課長等

4 議事概要

各政策の担当課長等から評価書素案について説明した後、意見交換を行った。有識者からの主な御意見は以下のとおり。

【政策 2 行政評価等による行政制度・運営の改善】

- ・ 行政相談の認知度が 3 割程度で横ばいとなっており、名称だけでなく、その具体的な理解を深めるための対応が必要となるのではないか。
- ・ 行政相談のロジックモデルにおける、満足度・信頼度の向上が認知度の向上につながるという流れについては、認知度という用語も含め検討が必要ではないか。
- ・ 評価書であるので、行政事業レビューシートの情報を活用して、評価に関する記載をすべきではないか。
- ・ 政策評価のロジックモデルにおける各府省の課題の把握件数や、行政相談のロジックモデルにおける相談受付件数等は、多ければいいものではなく、目標を立てられない指標であることに留意が必要。
- ・ 政策評価について、政策効果の把握・分析と意思決定への反映という 2 つのミッションのロジックモデルへの落とし込みをより明確にすべきではないか。

【政策 9 情報通信技術の研究開発・標準化の推進】

- ・ アウトカムの達成度合いが十分でない場合に今のアクティビティ（個々の研究開発）を見直すということが本政策については難しく、進捗のモニタリングをしていくという位置付けでもよいのではないか。
- ・ 政策の現状認識とその根拠・実績、目指すところについて整理・分析を行い、政策効果を高めるための今後の方向性に分かりやすくつながるように、記載を工夫し

てほしい。

【政策 10 情報通信技術高度利活用の推進】

- ・ 政策目的と主な施策の関係について、ロジックモデルを含めて整理が必要ではないか。
- ・ ロジックモデルにおける事業実施件数や地域課題解決の取組創出数の指標については、予算額等の規模感が異なるものを単純に件数だけで見るのが妥当かどうか検討が必要ではないか。
- ・ ロジックモデルにおける教材の活用件数の指標については、アウトカムとして設定するのであれば、それが有効に活用されたのかどうかを評価し、その結果を次にどうつなげるかが見える形になるとよいのではないか。
- ・ 幅広い世代の ICT リテラシー向上のためには、各層に応じた対策が必要であり、特に青少年層については、文部科学省、こども家庭庁等との連携が重要。

（文責：総務省大臣官房政策評価広報課）